# 清酒 & Saké アルミ缶 watching in the world

## 清酒缶詰め @ 1936 in Japan

●戦前の 1936 年に発売された「沢の鶴」の缶入り清酒。材質はアルミではなくスチール（ブリキ）製で、缶は東洋製罐によるもの。
（写真：白鹿記念酒造博物館「お酒の容器クロニクル」の展示）
●蓋の王冠とのサイズ感から、1L くらいか。今もエンジンオイル缶などで使われる「コーントップ corn top」という形状で、缶専用の設備がなくても、びんの充填機や打栓機で製品化できるのがメリット。輸出用だったそうです。

## ビール缶詰め @ 1935-36 in US & UK

●世界初の缶ビールは 1935 年に発売されたアメリカの Krueger。通常の形のスチール缶で、「缶切り」で蓋に穴を二つ開ける方式でした。その翌年の 1936 年に、アメリカ初の「コーントップ缶」のビールが登場。写真の Schlitz は最初期のブランドの事例ですが、他にも多くのブランドがコーントップ缶の方を採用したそうです。一方、英国初の缶ビールは Felinfoel というブランドで、最初から「コーントップ缶」だったそうです。「缶切り」よりも、「栓抜き」で開ける「コーントップ缶」が、使いやすかったと思います。
●米・英でビールのコーントップ缶が登場したのが 1936 年。日本の清酒缶詰めはとても先進的だったといえますね。
●なお、日本初の缶ビールは、1958 年発売のアサヒで、3 ピース缶でビール缶がスチールからアルミになったのは 1950 年代、アルミ DI 缶になったのは 1960 年代、缶切りがいらないイージ―オープン蓋になったのは 1960 年代だそうです。
（この文章の内容および写真は、いろいろなネット情報から）

## 清酒アルミ缶 @ c1960s-80s

●ガラスびんの「ワンカップ大関」が出たのが東京オリンピックの 1964 年。その成功の影響もあって、今の形状の清酒缶が計画されました。
●最初の清酒アルミ缶はインパクト缶でした。左端の写真は、インパクト缶に当社製広口キャップを組み合わせた 1960 年代の試作品。カップ酒を意識したフルオープン（全開）という基本設計は今も引き継がれます。
●現在、「ふなぐち菊水」など多くの清酒ブランドで使われる 180ml・200ml 兼用の清酒アルミ缶（形式名「W180」）の基本形は、1970 年代に登場。東洋製罐初の DI 缶として高槻工場で製造されました。DI 缶は本来、薄肉の 2 ピースアルミ缶をつくる技術ですが、清酒はホットパックで減圧になるため厚肉缶です。清酒は微量の鉄イオンで黄変するので、スチール缶では商品化が難しく、アルミ缶が登場して清酒容器として安定したものになりました。
●きた産業は、ごく初期から東洋製罐とタイアップして、ほぼ半世紀にわたって清酒アルミ缶に関わってきました。また、導入しやすい清酒缶詰機として「澤田式」（ルーツ機械研究所の前身の会社の機械）を販売してきました。
●写真は、1980 年代のきた産業のカタログから。180/200ml 缶は DI 缶ですが、中央の 300ml 缶だけはインパクト缶（東洋製罐東京工場製）です。当時、武内プレス工業も清酒缶を製造していて、これもインパクト缶でした。（DI 缶：板状のアルミをプレスで「しごく」方法　インパクト缶：メダル状のアルミを衝撃的圧力で金型のすき間から「押し出す」方法）

## 商品総覧@ 2021 in Japan

●現在市販されている清酒アルミ缶を集めました。（できるだけ網羅的に収集しましたが、複数のデザインがあるブランドでは、紙幅の都合で全てを掲載していない場合があります。）
●清酒にボトル缶が登場したのは 2015 年頃。当初は武内プレス工業の製品、ついで大和製罐の製品も加わりました。
●ボトル缶では、缶を薄肉にして軽量化を図るため、液体窒素を滴下して内部を陽圧にする技術が使われます。ボトル缶でなく、通常形状の缶でも液体窒素滴下で陽圧にするタイプ（形式名「C200」）がありましたが、2020 年までにすべて「W180」に移行しました。なお、液体窒素滴下でアルミ缶を陽圧化して軽量化する技術が日本に入ったのは 1980 年代で、新菱製缶（いまのユニバーサル製缶）がアメリカの Reynolds 社から技術導入したものでした。

北海道 / 男山 180→ | 北海道 / 田中酒造 180 | 青森 / 六花酒造 180 | 秋田 / 秋田酒類製造 180 | 秋田 / 秋 田清酒 180 | 秋田 / 鈴木酒造店 180 | 秋田 / 秋田銘醸 200 | 秋田 / 北鹿 180 | 岩手 / あさ開 180→ | 岩手 / 酔仙酒造 180→ | 岩手 / 南部美人 180 | 山形 / 東北銘醸 180→ | 山形 / 出羽桜酒造 180

新潟 / 菊水酒造 200→ | 180→ | 新潟 / 諸橋酒造 200 | 新潟 / 吉乃川 180 | 新潟 / 白龍酒造 200 | 新潟 / 宝山酒造 180 | 新潟 / 君の井酒造 200 | 新潟 / 越後鶴亀 180→ | 宮城 / 新澤醸造店 180 | 福島 / 榮川酒造 180→ | 福島 / 笹の川酒造 180 | 長野 / 若林醸造 180 | 長野 / 武重本家酒造 200 | 長野 / 沓掛酒造 180 | 長野 / 麗人酒造 200

長野 / 舞姫 180 | 長野 / 岩波酒造 180 | 茨城 / 山中酒造店 200 | 群馬 / 永井本家 180 | 群馬 / 永井酒造 180 | 群馬 / 近藤酒造 180 | 栃木 / 島崎酒造 180 | 埼玉 / 矢尾本店 180 | 埼玉 / 晴雲酒造 200 | 埼玉 / 松岡醸造 180 | 神奈川 / 大矢孝酒造 180 | 山梨 / 笹 一酒造 200→ | 静岡 / 富士錦酒造 180 | 石川 / 福光屋 180 | 200 | 岐阜 / 渡辺酒造店 180 | 三重 / 若戎酒造 180 | 兵庫 / 辰馬本家酒造 180 | 京都 / 黄桜 180 | 京都 / 玉乃光酒造 180 | 岡山 / 三光正宗 200 | 広島 / 中尾醸造 180

兵庫 / 日本盛 200 | 兵庫 / 白鶴 180, 260, 500 | 新潟 / 菊水酒造 270, 500 | 新潟 / 吉乃川 300, 180 | 新潟 / 白瀧 180, 300 | 兵庫 / 菊正宗酒造 270 | 兵庫 / 大関 270 | 京都 / 齊藤酒造 270 | 新潟 / 高野酒造 270 | 長野 / 薄井商店 270 | 鳥取 / 千代むすび 270 | 北海道 / 男山 270 | 京都 / 宝酒造 250 | 京都 / 招徳酒造 300 | 徳島 / 本家松浦酒造場 300 | 東京 / 小澤酒造、田村酒造場、石川酒造 180

画像は実物を撮影、またはバーチャル登場（ネットから画像を取得）　できるだけ全ての清酒アルミ缶を網羅する目的の記事で、当社と取引関係がないブランドを含みます　小さな数字は容量（ml）

秋田 / 喜久水酒造 720 | 山梨 / 谷櫻酒造 720 | 徳島 / 本家松浦酒造場 720 | 熊本 / 千代の園酒造 720

## Canned Saké @ 2021 in the World

●清酒アルミ缶は海外でも好評。写真は、黄桜、酔仙酒造、菊水酒造の輸出用モデル（米国向けの Government Warning の英文表記入り）です。
●海外のクラフトサケ醸造所でも缶製品が増えています。写真（右側）は、2021 年 5 月現在、海外で製品化されている Saké 缶です。